



タイヤ

ホイール

ショップ検索

イベント・ギャラリー

チェックでスマイル

## チェックでスマイル

HOME > チェックでスマイル > タイヤの空気圧<特別編>-1

Top

なるほど！タイヤ講座

スペシャル！タイヤ講座

タイヤの歴史

タイヤの製造

タイヤの構造と種類

タイヤの表示

タイヤの  
トレッドパターン/バルブ

タイヤの特性

タイヤの空気圧

ホイール・アライメント

ロープロファイル化

タイヤのメンテナンス

タイヤの装着

冬のドライブ編

### タイヤの空気圧<特別編>-1

BACK | 1 | 2 | 3 | 4 | NEXT

#### ◎ タイヤの空気圧管理をしっかりマスターしよう！

タイヤ空気圧のメンテナンスは、安全な走行に欠かすことのできない重要項目です。一般的に「タイヤが空気圧に依存する割合は90%」といわれるように、いくら高性能なタイヤでも適正な空気が入っていないければ、十分な性能を発揮することはできません。言い換えれば、タイヤ空気圧に関する知識をしっかりとマスターしておけば、安全な運転にもつながります。では、タイヤ空気圧について見ていくことにしましょう。

#### ◎ タイヤの空気圧が減少する理由は大きく2つ。

##### 1 タイヤの成長による空気圧の減少

新品のタイヤを組み込み、タイヤの内部に空気を充填すると、タイヤの骨格であるベルトなどの構造部材がなれることによって若干ですが膨張します。これを「タイヤが成長する」といいますが、これにより新品タイヤの交換から約1ヶ月間で、10～20kPa空気圧が減少するといわれています。

##### 新品タイヤに初めて空気を入れると

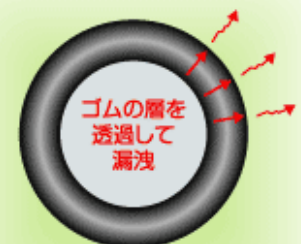


1ヶ月で10～20kPa減少

##### 2 空気の漏洩による空気圧の減少

タイヤの空気は1ヶ月間で10～20kPaが自然に抜けるといわれています。空気を抜けにくくするために、タイヤの内側にはインナーライナーという気体を透過しにくいゴムのシートが貼られていますが、そのゴムの分子よりも空気の分子の方が小さいため、空気がゴムの層に入り込み、タイヤ全体からじわじわと抜けていくのです。

##### 適正空気圧設定後1ヶ月ほど経つと



1ヶ月で10～20kPa減少

タイヤ

ホイール

ショップ検索

イベント・ギャラリー

チェックでスマイル

## チェックでスマイル

HOME > チェックでスマイル > タイヤの空気圧<特別編>-2

→ Top

なるほど！タイヤ講座

スペシャル！タイヤ講座

→ タイヤの歴史

→ タイヤの製造

→ タイヤの構造と種類

→ タイヤの表示

→ タイヤの  
トレッドパターン/バルブ

→ タイヤの特性

→ タイヤの空気圧

→ ホイール・アライメント

→ ロープファイル化

→ タイヤのメンテナンス

→ タイヤの装着

冬のドライブ編

### タイヤの空気圧<特別編>-2

[BACK](#) | [1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [NEXT](#)

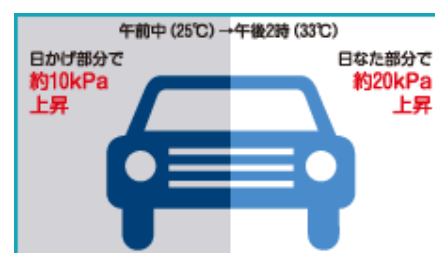
#### ⑧ タイヤの空気圧点検は走行前の冷間時が原則。

クルマが走るにより、タイヤは路面との摩擦でゴム部材に熱が発生します。当然ながらタイヤ内の温度も高まり、空気の膨張によって空気圧が上昇することになります。指定空気圧はタイヤが冷えている冷間時のものなので、温度が上がり空気圧も上がった状態で調整してしまうと、温度が下がったときに指定空気圧を下回ることになります。そのため空気圧点検・調整は、基本的には走行前の冷間時に行うようにしましょう。



#### ⑨ 気温の上昇や日照により空気圧が上昇することも。

走行前であっても、外気温の上昇や日光が当たることなどによって、タイヤの空気圧は上昇することがあります。温度上昇が著しい夏場の日中では、午前中（25℃）から午後2時頃（33℃）の間に、直射日光にさらされた日なた部分で約20kPa、日かげ部分でも約10kPa、空気圧が上昇するといわれています\*。こうしたことも考慮して、空気圧点検を行いましょう。



\*すべての条件に当てはまるわけではありません。

#### ⑩ 温度が10℃上がると空気圧も10kPaほど上昇。

計算式に基づいて算出すると、温度変化と空気圧の変動はほぼ正比例しています。大体ですが、温度が10℃上がる（下がる）と10kPa上がる（下がる）と考えられます。こうした空気圧が変化する要因をしっかりと理解して、日頃の空気圧点検を行いましょう。

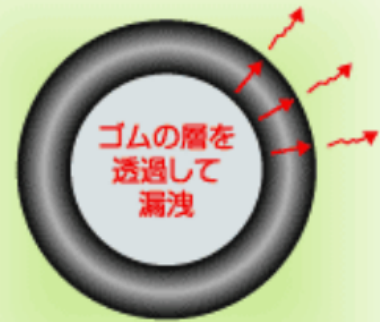
#### ⑪ 標高の違いや大気圧の変化によっても空気圧は変化。

標高の違いや大気圧の違いでも、理論的には空気圧は微妙に変動します。一般的に、標高が100m高くなるごとに、約1.2kPaずつ大気圧が下がるといわれます。この理論でいけば、海拔

## 2 空気の漏洩による空気圧の減少

タイヤの空気は1ヶ月間で10～20kPaが自然に抜けるといわれています。空気を抜けにくくするために、タイヤの内側にはインナーライナーという気体を透過しにくいゴムのシートが貼られていますが、そのゴムの分子よりも空気の分子の方が小さいため、空気がゴムの層に入り込み、タイヤ全体からじわじわと抜けていくのです。

適正空気圧設定後1ヶ月ほど経つと



1ヶ月で10～20kPa減少

誤 ヨコハマタイヤ

タイヤの空気は1ヶ月で10～20kPaが自然に抜けるといわれています。

正

タイヤの空気は1ヶ月で0～20kPaが自然に抜けます。

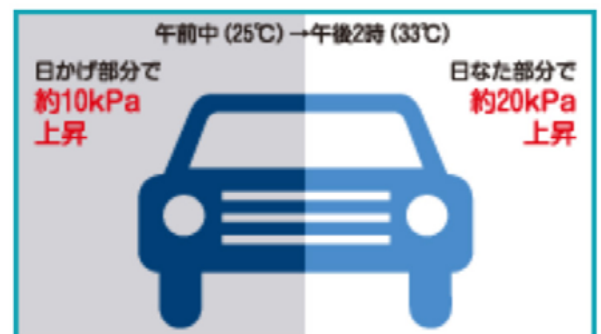
平均気温 5度の1月から2月は 約1% (2～3kPa) 冬はほとんど抜けない。

平均気温 28度の8月は 約4～6% (10～15kPa)

★メーカー、銘柄、サイズによって違いあり

## ● 気温の上昇や日照により空気圧が上昇することも。

走行前であっても、外気温の上昇や日光が当たることなどによって、タイヤの空気圧は上昇することがあります。温度上昇が著しい夏場の日中では、午前中(25℃)から午後2時頃(33℃)の間に、直射日光にさらされた日なた部分で約20kPa、日かげ部分でも約10kPa、空気圧が上昇するといわれています\*。こうしたことも考慮して、空気圧点検を行いましょう。



こうしたことを考慮して、空気圧点検を行いましょう。

理解不能：直射日光が当たっているタイヤの空気圧点検をしてはいけなしのでは？

誤 ヨコハマタイヤ

気温上昇が著しい夏場の日中では、午前中(25℃)から午後2時頃(33℃)の間に、直射日光にさらされ日なた部分で約20kPa、日かげ部分でも約10kPa、空気圧が上昇するといわれています。こうしたことを考慮して、空気圧点検を行いましょう。

正

夏でも冬でも1年中直射日光の影響はある。太陽の位置が低く、乾燥した秋、冬、春の方が夏より直射日光の影響は大きい。

午前中でも直射日光の影響はある。

## ● 温度が10℃上がると空気圧も10kPaほど上昇。

計算式に基づいて算出すると、温度変化と空気圧の変動はほぼ正比例しています。大体ですが、温度が10℃上がる（下がる）と10kPa上がる（下がる）と考えられます。こうした空気圧が変化する要因をしっかりと理解して、日頃の空気圧点検を行いましょう。

こうした空気圧が変化する要因をしっかりと理解して、日頃の空気圧点検を行いましょう

理解不能：基準気温なしでどのように調整するのだ＞

## 理解不能の文学

とされている、考慮して、理解して  
具体的に点検方法を一切説明していない。

特許 タイヤの空気圧調整法を使えば全て点検調整できます。

特許に触れる為、わざと訳の分からない文書にしている。

実は、そ CO2 削減のために普及させることを第一に考え、特許の無料使用を全タイヤメーカー、全自動車メーカーに提案しましたが、無視されました。

全タイヤメーカー、全自動車メーカーのお客様相談室の担当者は、ただ、「空気圧点検をすることが大事だ」と答えます。絶対に科学的にデータを出して説明しない。「あなたは、月1度タイヤの空気圧点検やっていますか」と質問すると「決められた方法で」とか答えなかったり、キレて怒り出したり、自分の経験は話さない。やっていないから話せないのが真実なのは明らかである。

大企業のメーカーとして啓蒙啓発を業務として行う為に、机の上で文章を作っただけの文章で日常生活の使用した日常点検の経験と科学データから作ったものではない。

オカダ式空気圧調整方法は、日常生活の中で日常点検を行った正確なデータを元に導き出した方法で特許を取得した科学的な点検方法である。

私は、良い子の子供たちに、胸をはって「私がお手本です。」と命にかけて自信をもって言えます。 岡田康博